

塩谷郡市医師会だより

Contents

- 1 第76回定時総会報告
- 2 第1回理事会報告
- 3 年間行事予定・学術講演会予定
- 4 学術講演会報告
- 5 会員投稿

一般社団法人 塩谷郡市医師会
広報委員会

〒329-1312

さくら市桜野1319番地3

さくら市氏家保健センター内

TEL 028(682)3518

FAX 028(682)5760

◆塩谷郡市医師会第76回定時総会報告

令和5年4月22日(土)さくら市氏家保健センターで第76回定時総会が開催された。定時総会の前に栃木県医師連盟塩谷郡市支部の総会も開催され、令和4年度決算、令和5年度予算について決議された。

定時総会は定款により選出された橋本議長により議事が進められた。医師会員数96名中出席17名、委任状出席49名、計66名の出席で定足数充足が確認されたことにより第76回定時総会の成立が告げられた。

阿久津会長のあいさつ
の後、佐藤副会長より理事会、総務会、委員会活動などの会務報告があり、その後、議事に入った。



第1号議案「令和4年度塩谷郡市医師会事業報告並びに収支決算の承認を求める件」

第2号議案「令和4年度塩谷郡市医師会貸借対照表及び損益計算書と各附属明細書の承認を求める件」

第3号報告事項「令和5年3月31日現在財産状況の報告について」

第4号報告事項「令和5年度塩谷郡市医師会事業計画並びに収支予算の報告について」

1~4号について説明と報告があり可決承認された。

第5号議案 その他

提案・質疑事項なし

◆第1回理事会報告

出席者:阿久津会長、佐藤泉副会長、村井成之副会長、花塚会計担当理事、佐藤(勇)・村井(信)・仲嶋・植木・高橋・手塚・須田理事、中嶋監事

令和5年5月23日(火)午後6時45分から佐藤副会長の司会により開催された。

- (1) 冒頭に会長方針として、令和5年度「塩谷郡市医師会事業計画」により進めていくが、5月8日に新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により、今年度は、正常な医師会活動に戻していきたい。学術講演会等の開催も状況を判断しつつ、従来同様の対面による方法も検討していきたい。
- (2) 令和5年度年間計画について、この3年間中止していた納涼会(7月14日)、ゴルフコンペ(12月3日)、新年会(1月12日)を再開したい。
- (3) 市民公開講座は、令和2年度は中止、3~4年度はWebとYouTube配信で開催してきたが、今年度は、11月12日、さくら市医師団の担当により、さくら市氏家公民館ホールで開催することになった。
- (4) 各種委員会の開催について
正常な医師会活動として、各種委員会を開催したい。開催を予定している委員会は、保険委員会、研修委員会(産業医部会)、塩谷地区夜間診療室委員会、災害医療対策会議他である。
- (5) その他
阿久津会長から、日本医師会の組織強化に向けた動きと当医師会の方針についての説明があった。

塩谷郡市医師会ホームページ/メール	広報委員会編集部
URL http://www.tochigi-med.or.jp/shioya/ メール shioya@tochigi-med.or.jp	高橋 雄二・中嶋 義明・加藤 健・岡 一雄

塩谷郡市医師会行事予定

令和5年

- 4月22日(土) 第76回定時総会、
医師連盟第22回通常総会
- 5月9日(火) 第1回総務会
- 5月13日(土) 郡市・大学医師会正副会長懇談会
中止
- 5月23日(火) 第1回理事会
- 7月14日(金) 納涼会(矢板市医師団)
- 8月22日(火) 第2回総務会
- 9月26日(火) 第2回理事会
(未定) 郡市・大学医師会正副会長懇談会
- 11月12日(日) 第18回市民公開講座(さくら市)
- 12月3日(日) 第3回塩谷郡市医師会ゴルフコンペ

令和6年

- 1月12日(金) 新年会(さくら市医師団)
- 2月13日(火) 第3回総務会
- 3月5日(火) 第3回理事会
- 4月20日(土) 第4回理事会
第77回定時総会
医師連盟第23回通常総会

学術講演会等予定

令和5年

- 5月16日(火) 高齢者心房細動のトータルケア
- 6月8日(木) 産業医研修会
- 6月20日(火) 高血圧症、心不全
- 7月11日(火) 脂質異常症
- 9月12日(火) 泌尿器、過活動膀胱
- 9月19日(火) 県立がんセンター
胆道癌根治術後の補助療法
- 10月24日(火) 消化器関連
- 11月14日(火) ウイルス性肝炎、経口治療薬
- 11月16日(木) 産業医研修会
- 12月12日(火) 糖尿病関連

令和6年

- 1月16日(火) 認知症関連
- 2月20日(火) 腎疾患関連

注:5月末日時点での予定のため、日程やテーマなどを
変更する場合があります。

学術講演会 I (Web)

「HPV ワクチンの積極的勧奨再開にあたり」

日時: 令和4年9月6日(火)

講師: 栃木県立がんセンター

婦人科 佐伯 直彦 先生

本邦では、年間約1万人が子宮頸癌に罹患し、約2,800人が亡くなっている。罹患数、死亡数ともに増加傾向にあり、罹患のピークが若い世代へ変化している。子宮頸癌はヒトパピローマウイルス(HPV)感染症が主な原因と考えられる。HPV ワクチン接種により、未感染者の感染、前癌病変や頸癌の発生いずれも予防可能であり、安全性のエビデンスも整っている。本邦は、諸外国の子宮頸癌根絶の流れから大きく取り残されており、現状のままではこれからも多くの命が失われる可能性がある。「失われた8年」を取り戻すためにキャッチアップ接種が勧奨されている。一方、HPV ワクチンはすべての原因ウイルスをカバーできるわけではなく、癌検診と組み合わせた管理が重要である。(仲嶋 秀文)

学術講演会 II (Web)

「冠動脈疾患患者における脂質異常症の管理」

日時: 令和4年9月13日(火)

講師: 那須赤十字病院 循環器内科

部長 影山 倫也 先生

動脈硬化メカニズム、LDL-C と心血管イベントとの関係について解説された。LDL-C 値が高くなるとプラーク体積率は高くなり、心血管イベントの発症率が増える。スタチン製剤等でLDL-C を下げればプラーク体積率も下がり、心血管イベントは低下する。スタチン単独でガイドライン目標値を達成できない場合はエゼチミブが有効である。冠動脈疾患の2次予防ではLDL-CはLower is Betterであり、スタチン、エゼチミブ、さらにはPCSK9阻害薬を用いて管理する。中性脂肪が高いとLDL-Cが小型化して、動脈硬化を促進することが示されており、中性脂肪の管理、特にスタチンに加えてフィブラートを併用することが推奨される。学術的根拠から診療に役立つ情報まで大変わかりやすくなるためになる講演であった。

(関根 豊)

学術講演会 III (Web)

「呼吸器・アレルギー内科医が考える抗ヒスタミン薬治療のポイント」

日時：令和4年10月25日（火）

講師：獨協医科大学呼吸器・アレルギー内科

准教授 武政 聡浩 先生

アレルギー性鼻炎、血管運動性鼻炎、神経過敏による鼻炎などの症状及び診断から始まり、気管支喘息やアトピー性皮膚炎などとの関りの話が続いた。

食物アレルギーの話では、アレルギー性鼻炎と果物との関係の話など興味深い話もあった。

予防では、普通のマスクやメガネでも十分に予防できるということ。

治療では、眠気の少ない第2世代の抗ヒスタミン薬であるビラノアやオロパタジン、フェキソフェナジンなどの紹介。抗ヒスタミン薬でコントロールできない場合はアレルゲンからの回避、外用薬の併用、アレルギー免疫療法などの紹介。

免疫療法には、皮下免疫療法(5歳以上)舌下免疫療法(12歳以上)がある。皮下免疫療法はスギ花粉には70~80%有効、舌下免疫療法はアナフィラキシーも少なく、無理なくできるので人気があり、できれば先生方も取得して希望者には処方していただきたい。

後鼻漏症候群も日本人の2割弱と比較的多く、慢性咳嗽で痰が出るということは必ずしも気管からではなく鼻水が下がってのこともあるので問診で鼻の状態を聞くことは大切である。

最後にビラノアの印象について質問したところ、使用した患者様からの反応は大変良かったので、勧められる抗ヒスタミン薬であるとの話でした。

(植木 雅人)

学術講演会IV (Web)

「脳卒中診療 Update～最新の治療情報から最適な
血圧管理まで～」

日時：令和4年11月15日（火）

講師：自治医科大学 内科学講座 神経内科学部門

教授 田中 亮太 先生

脳梗塞急性期の治療として、rt-RA/アルテプラゼ静注療法と機械的血栓回収療法があるが、共に治療開始までのスピードが大切である (Time is brain)。

近年、脳梗塞による死亡率は減少しているが、脳出血による死亡率は未だ高い状態にある。後期高齢者においては、心房細動、冠動脈疾患、脳梗塞などが基礎疾患にあり、抗血栓薬の使用例が多く、DOACと比較しワルファリンによる脳出血死亡リスクが高い。

脳出血発症前の高血圧は、半数が未治療であり、特に55歳未満では約8割が140mmHg以上とコント

ロール不良である。アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬 (ARNI) は、RAAS 抑制と内因性利尿ペプチド作用亢進を併せ持ち、24時間持続的な降圧降下を示し、高血圧管理に有用である。

(川嶋 章浩)

学術講演会V (Web)

「PHコントロールから考える酸関連疾患の臨床」

日時：令和4年12月13日（火）

講師：自治医科大学 内科学講座 消化器内科学部門

教授 大澤 博之 先生

学術講演会VI (Web)

「認知症と不眠」

日時：令和5年1月17日（火）

講師：烏山台病院 院長 杉浦 啓太 先生

烏山台病院は早くから認知症疾患医療センターとして活動してきた。受診動向や診断名、処方内容などを集計したが、最近では紹介状無しで受診する患者さんが20%から40%に増加しており、家族が直接当院を受診する傾向にある。これは認知症への理解と当院の特色が周知されてきたことと考えている。初診時の診断はアルツハイマーが6割、MCIが1割、その他が3割で、その他はレビー小体型認知症や血管性認知症が含まれる。BPSDを伴う例が増加しており、6割が施設や家族の対応困難例である。使用される薬剤について処方比率を示し、併用療法を推奨した。向精神薬の使用については家族に説明が必要となる場合があるので注意すること。

不眠症についてメラトニンやオキシトシンの脳内動態や役割を説明、レム睡眠・ノンレム睡眠について年齢による変化を示した。睡眠時間と疾患から1日6~7時間の睡眠が良いとされている。加齢によりノンレム睡眠が減少することから高齢者では睡眠の実感が得にくくなる。本人は不眠を訴える場合でも、家族からよく寝ていると云われるので、睡眠の実態をよく聞き取り対応する必要がある。ベンゾジアゼピン系睡眠薬は脳全体に影響し依存や反跳性不眠、せん妄などの問題がある。海外ではその使用は強く制限されているが、日本ではまだ使用が多い。ベンゾジアゼピン以外の睡眠薬に変更する場合には、一旦併用してから徐々に減量する方法が一般的であるが、一度に切り替える方法もあるので、個々に応じて対応して頂きたい。(阿久津 博美)

◆猫のこと

橋本医院 橋本 敬 (矢板市)

二匹の猫と暮らしています。保護猫で推定 11 歳の雌の姉妹です。縁あって生後半年頃我が家にやってきました。旅行には行けなくなりましたが、日々癒され感謝しています。私が子供の頃、猫とは自由気ままに外に遊びに行き、けんかや狩りをして、帰ってきては「ねこまんま」を食べるものでした。が、今どきは完全室内飼育、避妊・去勢手術にワクチン接種、マイクロチップ装着、猫種、年齢、疾患別のフードや嗜好品があふれる状況で、90年代と比べ飼い猫の寿命は10年以上延びたそうです。一方で野良猫、地域猫そして野猫。人間の身勝手な事情により外で暮らす猫たちは、いつも危険や様々な問題に直面しています。「猫の幸せのために人間ができることは何か」を考える人が増えるといいなあと思っています。

◆近況

関根クリニック 関根 豊 (高根沢町)

新緑の美しい爽やかな季節になりました。しかし当院の管理不良の芝生は、緑の芝と茶色いサッチ(枯れたり根がむき出しになっているところ)のまだら模様で、雑草とりが朝のルーチンワークとなっています。

さて、この冬はワクチンや発熱外来など非常に忙しいシーズンでしたが、5月8日にコロナ感染症は5類へ位置付け変更となり、わずらわしいHER-SYSの報告もなくなりました。しかし、やっと落ち着いてきたかと思いきや、また息を吹き返したように、コロナ陽性者がポツンポツンと増えている印象で、定点当たりの報告数も増加傾向となっています。また65歳以上及び基礎疾患のある方のワクチン接種も始まり、まだ終わらないのだなと実感しました。思えばコロナ禍で失ったものもたくさんあるけれど、補助金、助成金をはじめ、ワクチン接種や発熱外来での新たな患者さんとの関係など、得たものもたくさんあった3年間だったように思います。

週末は芝刈りに励んで、来年はディズニールンドの芝生のような、雑草一つも生えない緑一色の芝生にしたいと思います(かなり高い目標)。

◆晴耕雨読

風見診療所 小島 崇 (塩谷町)

4月の「しおや100kmウォーク」に参加し、70kmでリタイアし、古希を迎えた衰えを実感させられた今日この頃です。

40歳の頃、思うところあり、国保診療所の勤務に就き、家族連れで24時間束縛される限界集落での生活の中、仕事を離れた楽しみを求め、土いじりを始めました。ほとんど収穫のない年が続きましたが、みかねた周囲の人より、堆肥作りを勧めてもらいました。畜産農家より牛糞をもらい、落葉を集め、籾殻でくん炭を作り畑に使うことで徐々に収穫を得られるようになりました。

ここ塩谷町でも、羽黒山より落葉をもらい、ホームセンターより米糠を頂き、作った堆肥をお借りした休耕田に投入。

6月には新たまねぎ、新じゃがいもの収穫を得ています。

日の出と共に畑に出、夕方には釣り竿をかついで夕飯のおかずを得、雨の日には、藤沢周平の世界に浸る、そんな日々を夢見て日々を送っております。

◆さくら市医師団長に就任しました

森島医院 森島 真 (さくら市)

4月1日より、岡一雄先生から、さくら市医師団長を引き継ぎました。団長を検索すると、安田大サーカスの団長などが出てきますが、出来るだけ、明るくまじめに行こうと思います。矢板市、高根沢町、塩谷町の先生方、よろしくお願ひします。

さて、新型コロナによる行動制限が緩和され、11月にはさくら市氏家公民館にて、塩谷郡市医師会の市民公開講座が開催されます。大きなイベントは久しぶりであり、担当のさくら市医師団の団長として、大勢の前で挨拶することになります。しかし、運動不足がたたり、この1年で7~8キロ太ってしまい、背広が着られるかどうか、一番の心配事です。

オンライン資格確認の義務化や紙保険証の廃止、不安定な薬剤供給の問題など、いろいろと医療現場が混乱する昨今ですが、活気のあるさくら市医師団となるよう、努めていく所存です。